

教学 IR をきっかけとする教育改善の取り組み

事例1: 学生代表の参画による学修環境の改善

「大学評価会議」は、学外有識者や学生代表が構成員として参画する会議で、学内からは学長、理事長、副学長、学部長、研究科長、事務局長が構成員となっている。この会議では、熊本保健科学大学における 3 つのポリシーを踏まえた適切性にかかる客観的かつ公平な自己点検・評価の実現のため、学外有識者や学生代表がそれぞれの視点で大学運営に対する意見を述べる。その際、会議に参加する学生自身の意見に加え、全学生に実施している「学修行動調査」に記載された意見や学友会に寄せられた意見など、大学に対する幅広い意見・要望が取り上げられ、随時改善に繋げている。学生代表が構成員として参画する場合は、大学評価会議設置以前より設けられており、「学生代表者と学長との意見交換会」という形で実施されていた。意見交換会には、学長のほか、副学長、学部長、事務局長、事務局次長が出席し、5 名程度の学生代表との間で学修環境や学生支援、学生サービス等について意見交換が行われてきた。

コロナ禍において、登学機会の減少に伴い、互いに教え合ったり、理解を確認し合ったりするという学生同士での学びの環境が失われていること、特に国家試験対策において学生同士の学びの場を確保できないかという要望が会議において寄せられた。これを踏まえ、大学内で検討を行い、感染状況を踏まえながら、国家試験を控える 4 年生に限り PCR 検査を実施し、陰性が確認されれば登学し、感染対策に留意しながら勉強できるような環境を整えた。

事例 2: 学生の目線を踏まえた遠隔授業の改善

令和 2(2020)年前期、COVID-19 を契機として導入された遠隔授業。学生はもちろん、教員のほとんどは遠隔授業の経験がなく、すべてが手探りの状況からのスタートであった。そのような中で、FD 委員会・教務委員会を中心に前期終了時にアンケート調査を実施。その結果の一部はただちに FD セミナー「令和 2(2020)年度前期遠隔授業の振り返り」において紹介され、遠隔授業の質保証に向け各教員の授業改善が進められた。アンケート結果からは、授業内容の理解に繋がるようわかりやすく工夫されていたポイントとして、「質問や課題に対する丁寧な回答」「授業を受けていることが実感できる資料づくり(教員からのちょっとした説明やコメントの掲載)」「ユーザビリティの高いメディアやアプリの活用」「集中力が持続できる分量」「取り組んでほしい内容の明確化」が挙げられ、FD セミナーでは具体的な取り組みの紹介も行われた。また、クラウド型教育支援サービスを導入することで、より多様な授業の形に対応できるよう改善を進めた。その後、後期にもアンケート調査を実施し、前期アンケート結果を踏まえた教育改善の効果を評価した。その結果、授業形態別の満足度が向上したことに加え、配付資料や課題の量、資料のわかりやすさなどについて前期遠隔授業よりも改善されているという結果が得られ、学生の学びを促進するための改善が進んだことが確認された。

事例 3: 学生インタビューを踏まえた国家試験対策

IR 推進委員会では、コロナ禍の数年を除き、ランチミーティング形式での学生インタビュー

を行っている。平成 30(2018)年度の学生インタビューは、国家試験対策委員会と合同で国家試験対策をテーマにインタビューを実施した。国家試験合格は、本学における学生教育の一つの大きな目標であり、各学科・専攻では国家試験対策をどのように行うかは重要な課題である。この年の学生インタビューでは、国家試験受験後の自己採点日に行われ、模擬試験等の成績上位層の学生だけでなく、途中まで伸び悩んだがある時期からぐんと伸びた学生などを対象に実施し、成績が伸びたきっかけや後輩に勧めたい取り組み、モチベーションを維持するための工夫、改善した方がよい点などについてインタビューを行った。インタビューを通して、それぞれの学生がどのような時期からどのような勉強を行ったのかを知るだけでなく、国家試験当日の過ごし方に至るまで、学生目線での様々な意見や提案が得られた。それらの意見や提案は、国家試験対策委員会においても共有され、各学科の国家試験対策の改善に繋がられた。また、勉強スペース等の施設・設備面の要望や提案については、関係会議体・部署等での審議を経て改善されている。なお、卒業時に実施する卒業・修了時アンケートにおいて、国家試験対策についての設問を設け、他の設問と合わせて教育改革推進会議に報告するとともに、国家試験対策委員会において情報を共有することで、その後の改善状況を確認している。学生インタビューは、直接的に学生目線の意見が得られる貴重な場である。引き続きこのような場を活用し、学修者の主体的な学びをサポートしていく。